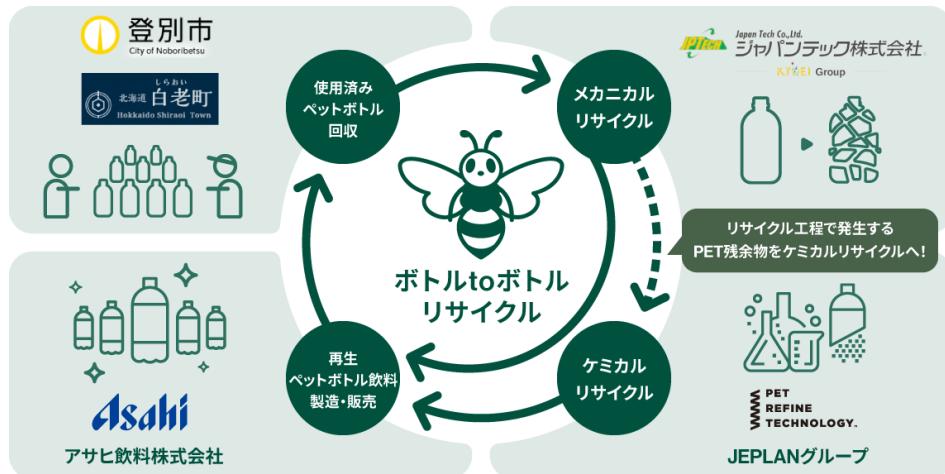


株式会社 JEPLAN
ペットリファインテクノロジー株式会社
2026年2月17日

**JEPLAN グループ：ペットリファインテクノロジー、北海道登別市・北海道白老町・
アサヒ飲料・ジャパンテックと「ペットボトルの水平リサイクルの実施に関する協定書」を締結
—ボトル to ボトル リサイクルの協働により日本国内の PET ボトルの循環利用を推進—**

株式会社 JEPLAN（代表取締役 執行役員社長：高尾 正樹、以下「JEPLAN」）のグループ会社であるペットリファインテクノロジー株式会社（代表取締役 執行役員社長：伊賀 大悟、以下「ペットリファインテクノロジー」）は、登別市（市長：小笠原 春一）、白老町（町長：大塩 英男）、アサヒ飲料株式会社（代表取締役社長：米女 太一、以下「アサヒ飲料」）、ジャパンテック株式会社（代表取締役社長：古澤 栄一、以下「ジャパンテック」）、とともに、日本国内の PET ボトルの循環利用の推進を目的とした「ペットボトルの水平リサイクルの実施に関する協定書」を 2 月 12 日（木）に締結しました。また、同日に協定書に署名をする締結式を行いましたので、お知らせします。



本協定により、登別市および白老町の家庭から回収された使用済みの PET ボトルは、ペットリファインテクノロジーによる「ケミカルリサイクル（化学的再生法）^{*1}」と、ジャパンテックによる「メカニカルリサイクル（物理的再生法）^{*2}」の二つのリサイクル方法を組み合わせて、新たな PET ボトルの原料として再生されます。アサヒ飲料は、この二つのリサイクル方法を活用し、再生 PET 樹脂を採用した飲料製品の製造・販売に取り組みます。これにより 5 者が協力し、PET ボトルの水平リサイクル率向上を目指します。本取り組みにより、PET ボトルの原料である石油由来資源の PET 樹脂の消費を抑えられるだけでなく、製造過程で発生する温室効果ガスの排出量削減にも貢献します。

ケミカルリサイクルでは、使用済みの PET ボトルを分子レベルまで分解し、色素や金属などの不純物を取り除くため、形状などの理由で従来のリサイクルでは再生が困難だった PET 製品も、石油由来と同等品

本件に関する取材のお問い合わせ先

株式会社 JEPLAN 広報担当

電話：044-223-7898 E-mail：jepplan_info@jepplan.co.jp

質の再生 PET 樹脂にリサイクルできます。本取り組みでは、ジャパンテックが行うメカニカルリサイクルの工程で発生する粉状の PET 成分を、ペットリファインテクノロジーがケミカルリサイクルすることで、メカニカルリサイクルのみの場合と比較して、リサイクル率をさらに向上することが可能になります。このように 2 つのリサイクル方法を用いることで高い水平リサイクル率を実現し、「ボトル to ボトル」の資源循環を推進します。

JEPLAN グループでは「あらゆるものを循環させる」というミッションの実現に向けて、引き続き国内外のパートナーとの連携を進め、グループ一丸となりサーキュラーエコノミーを牽引していくことに努めてまいります。

*1 PET ボトルを分子レベルまで分解し不純物を除去・重合するプロセスを経て、石油由来の PET 樹脂と同等品質の原料に再生する方法
 *2 PET ボトルを選別、粉碎、洗浄し、高温下で不純物を取り除いて再生する方法

■ペットボトルの水平リサイクルの実施に関する協定締結式



(写真左から) ペットリファインテクノロジー株式会社 執行役員：美濃越 裕介、ジャパンテック株式会社 取締役経営企画部長：小林博文氏、アサヒ飲料株式会社 未来創造部 CSV 戦略部部長：三浦 正博氏、白老町 町長：大塩 英男氏、登別市 市長：小笠原 春一氏

■JEPLAN グループが推進するボトル to ボトルのリサイクルに係る取り組み (<https://bringbottle.jeplan.co.jp/>)

JEPLAN グループは、日本全国の自治体と連携し、ボトル to ボトルリサイクルの取り組みを推進しています。役割を終えたモノがゴミではなく、価値ある資源として循環する社会を目指しています。この取り組みの一環として、PET ボトルを回収し、再び PET ボトルにリサイクルする活動「おかえりペットボトルアクション」を実施しています。



本件に関する取材のお問い合わせ先

株式会社 JEPLAN 広報担当

電話：044-223-7898 E-mail：jeplan_info@jeplan.co.jp

日本では、年間約 65 万トン^{*3} の PET ボトルが製造・販売されています。そのリサイクル率は約 85%^{*4} です。しかし、PET ボトルが PET ボトルとしてリサイクルされている割合は約 38%^{*5} にとどまっています。この残りの 62% をボトル to ボトル リサイクルすることを目指し、さらなる資源循環の推進に取り組んでいます。

*3,4,5 PET ボトルリサイクル年次報告書 2025 (PET ボトルリサイクル推進協議会)：
<https://www.petbottle-rec.gr.jp/nenji/2025/2025.pdf>

■登別市 (<https://www.city.noboribetsu.lg.jp/>)

市長：小笠原 春一

■白老町 (<https://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/>)

町長：大塩 英男

■アサヒ飲料株式会社 (<https://www.asahiinryo.co.jp/index.psp.html>)

代表取締役社長：米女 太一

■ジャパンテック株式会社 (<https://www.jtech-u.co.jp/>)

代表取締役社長 古澤 栄一

■ペットリファインテクノロジー株式会社 (<https://www.prt.jp/>)

代表者：代表取締役 執行役員社長 伊賀 大悟

設立：2008 年 10 月

所在地：神奈川県川崎市

事業内容：独自の PET ケミカルリサイクル技術を用いた使用済み PET ボトルのリサイクル樹脂の製造・販売

■ 株式会社 JEPLAN (<https://www.jeplan.co.jp/>)

代表者：代表取締役 執行役員社長 高尾 正樹

設立：2007 年 1 月

所在地：神奈川県川崎市

主な事業内容：PET ケミカルリサイクル技術関連事業（対象：PET ボトル・ポリエステル）など

JEPLAN グループは「あらゆるものを循環させる」をミッションに掲げ、サーキュラーエコノミーの実現を目指しています。廃 PET (PET ボトル、ポリエステル繊維等) を対象に、独自の PET ケミカルリサイクル技術を用いて分子レベルに分解し、不純物を除去することで、石油由来と同等品質の再生素材に生まれ変わらせています。この独自技術を用いて、リサイクルに取り組むことで、限りある資源の循環を実現し、CO₂の排出量削減にも寄与しています。

本件に関する取材のお問い合わせ先

株式会社 JEPLAN 広報担当

電話：044-223-7898 E-mail：jeplan_info@jeplan.co.jp

なお、JEPLAN グループはペットリファインテクノロジー株式会社（神奈川県川崎市）と北九州響灘工場（福岡県北九州市）の2拠点でPETケミカルリサイクルプラントを運営しており、国内外への技術ライセンス事業も推進しています。